みはま支援学校学校運営協議会
（令和5年度　第１回記録）

協議会趣旨：みはま支援学校の児童生徒の育ちを支えるため、学校や家庭、地域が互いの役割を確認し、協働して特色ある学校づくりを推進するとともに、児童生徒も大人も共に育ち、育て合う取組の推進を図る。

開催日時：令和５年６月１日（木）9:30～11:30
出席者：委員７名、事務局（本校職員４名）、
　　オブザーバー３名（美浜町中央公民館職員等）
議　事：①開会
　　②授業見学（二学部通学生の授業）
　　③会長・副会長選出（上野会長・岡副会長）
　　④学校運営方針の説明（学校長より）
　　⑤協議「みはま支援学校に期待すること」

授業見学

二学部（通学生）の授業見学をしていただきました。授業の様子を見ていただき、「緊張をほぐし、学校になじんでいる様子がうかがえる」「個別最適化な対応がなされている」といった感想をいただきました。また、感想の中で児童が外部からのお客様にあいさつができていたことを教えていただきました。
一学部（入院生）については玄関前に掲示している児童生徒の写真を見ながら事務局から説明させていただきました。

学校運営方針の説明

学校長から今年度の学校運営方針について説明しました。今年度の重点目標は
①実態把握と授業づくり
②キャリア教育の充実
③センター的機能の推進・充実　です。
児童生徒の病気の状況は多様化していますが、学部を超え、「一つのみはま」として取組を進める方向性について承認をいただきました。

協議「みはま支援学校に期待すること」

協議では委員それぞれの立場から「みはま支援学校に期待すること」について意見をいただきました。

特別支援学校の生徒は生活経験が不足しており、成長の過程で「気づき」を持てる機会が圧倒的に少ない。「自分らしさ」は教え込むのではなく、「やってみたい」「ワクワクする」体験をとおして得られること。そう感じる機会が多いほど、安定してステップアップしていける。

小中学校には、普通学級に在籍していながら課題を抱えている子が多く、対応に悩んでいる学校も多く、みはま支援から専門的なアドバイスを受けている。日高地方での役割は大きい。

一般就労を目指す上で、スキルも大事だが、気持ちの部分も大事。そこから意欲が生まれ、人との関わりの中で自分らしく生活しようというところにつながる。みはま支援の方針にそったカリキュラムに期待。

一学部の子どもたちも先生方のよい関わりで表情が変わったり、手足が少し動いたり、小さな表現だが、表現力が伸びていく。病院の中では制約が多いが、学校でいる間にいろいろな経験ができ、貴重な生活の機会となっている。

今は充実した学校生活、放課後等デイサービスの利用、とメリハリのある生活ができているが、卒業後人とのつながりが狭まるのではないかと心配。

病気の子どもは生活に制約があり、積極性・自主性・社会性が低下するといわれる。学校教育の中で安心できる人と一緒に課題が達成できるような経験ができると自信につながり、活動の広がりにより社会性も養われる。一学部・二学部どちらの子どもにもそういう力を育むことが病弱教育の素晴らしさ。

協議に続き、高等部の授業に外部講師として参加いただく森脇委員（TETAU共同事業組合）から授業の趣旨等お話いただきました。

社会には自分の感情がわからなくなっている人が多い。子どもには自分が何が好きか、嫌いかを知ってほしい。上手に表現できなくても、何らかの方法で自分の意見を表現できるようになってほしい。

今年度の授業では1学期は「東京の会社に勤めているが職場は白浜」といった社会のいろんな働き方を知ることを計画。2学期はテレワークの体験をリアルに経験してもらう。

授業を通して、企業も障害のある人と関わることで、意識改革できる。

【今回のまとめとして…学校長より】
・大人も子どもに元気な姿を見せることが大切。大人が元気でないと、子どもたちに元気を与えられない。
・体験的な学びは学校の取組だけでは限界がある。本協議会の力で、子どもたちに体験のチャンスをつくってあげたい。

※次回は9月11日（木）に開催します。